

2024 年度入学式 新入生誓いの言葉

花の香りが春風に乗って運ばれ心踊る季節となりました。

本日は、私たちの為にこのような盛大な入学式を執り行っただき、誠にありがとうございます。大学院新入生を代表して、心より御礼申し上げます。

私は大学卒業後から現在まで急性期病院の医療ソーシャルワーカーとして勤務しています。そして今年度より大学院医療・福祉マネジメント研究科 医療・福祉マネジメント専攻修士課程に入学することになりました。

医療現場の福祉職として働き始めて 10 年以上経ちました。経験を積み重ねるごとに対人援助職の難しさを痛感していますが、それと同時に面白さも感じ保健医療福祉の世界に魅了されています。現場でのソーシャルワーク実践の中で患者さんやご家族から「あなたに話を聞いてもらえて本当に良かった」と医療ソーシャルワーカー冥利に尽きるお言葉をいただける機会があります。私は嬉しい気持ちの反面で私の行ったどのような支援をそう感じてもらえたのか、どんな関わりが助けとなったのか。そんなことを考えることが増えました。そして、この疑問を研究を通して明らかにし、ソーシャルワーク実践の質の向上や人材育成に少しでも寄与したいと考え大学院進学を決意いたしました。

ソーシャルワークは人々のウェルビーイングの向上を目指すプロセスであり、人やその周りを取り巻く環境に働きかけ、あらゆる資源や知識、技術を活用し自己決定を支援する専門職です。しかしその実践成果は一見すると見えにくく他職種や他機関からその内容が正しく理解され辛い側面があります。

昨今の医療現場においては多職種連携やチーム医療がますます重要視され、ソーシャルワーカーは地域包括ケアや医療供給体制の構築のために専門性を生かした介入が求められています。ソーシャルワーカーが自らの役割を明確にして地域社会に貢献するためにはソーシャルワーク実践を可視化して共通言語にて他職種に示す力や幅広く高度な専門性が必要となります。異なる分野や職種の方が集まる本学では、それぞれの専門性への理解の視点や多角的な分析力、問題解決力を養うための環境が整っています。その環境を生かして志高く日々努力を積み重ねたいと思います。

この恵まれた環境に身を置き研究に打ち込めることや支えてくださる周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、伝統ある日本福祉大学大学院生の一員として自覚を持って行動し学業・研究に邁進することを誓います。以上をもちまして大学院新入生代表の挨拶とさせていただきます。

2024 年 4 月 1 日

大学院 新入生代表

医療・福祉マネジメント研究科 医療・福祉マネジメント専攻 修士課程

杉浦 裕子